

令和4年度第2回大山崎町男女共同参画計画懇話会 議事録

日 時：令和5年2月28日（火）午後3時00分～午後4時15分

場 所：大山崎町役場 3階 中会議室

出席者：＜委 員＞安楽委員、石原委員、上田委員、幸山委員、辻本委員

※五十音順

＜事務局＞谷利生涯学習課長、生涯学習課生涯学習・スポーツ振興係谷山主任、
同東郷主任

欠席者：＜委 員＞有馬委員、小島委員、中澤委員、皆川委員

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 議事

(1) 更新した内容について

＜意見交流＞

【事務局】第1回の懇話会で、皆様からいただいたご意見を参考に、新たに項目を追加している。1点目の追加項目として、「性的マイノリティ LGBTQ に関する理解促進」を追加。取組内容の詳細としては、ホームページ、広報への掲載や研修の実施、パートナーシップ宣言制度の導入に向けた検討などを考えている。

2点目としては、「職域拡大の推進」という項目を追加した。職業による男女の偏りを緩和させるために追加。取組内容の詳細としては、啓発ポスター、事業者に向けた男女均等な雇用方法の促進及び啓発、また男女ともに働くことができる環境設備の呼びかけ等を進めたいと考えている。

以上が前回から追加させていただいた内容。

【委員】約20年前の話であるが、ある男性が保育士の就職試験を受けたときに、一次試験は通るが、二次試験で落とされることが続いた後で、関係者から聞くと、男性職員を採用すると環境整備を整える必要があるからという理由で女性しか採用しないということだった。徐々に改善されてきてはいると思うが、今なおそのような偏りは見受けられる。

【委員】採用する立場であるが、トイレや更衣室の設備について特に問題ないが、男性の応募が少ないのが現状である。

【幸山】性別や年齢を明記した募集方法ができないこともあり、そのようなことが起こったのだと思う。どの職業でも性別関係なく就けるという一人ひとりの意識が大事で価値観を変えていくことも必要である。

【委員】現在、大山崎中学校の制服は、女子生徒がズボンを選択することができ、今後、男子生徒においてもスカートを選択すると思う。

更衣場所について、教室を更衣の場所として使っているが、専用の更衣室を設ける必要があ

と思う。

【委員】ある高校においてが、次年度は標準制服化となり、かなり自由度を増し、そして、服装規定もしっかりと決めている。

【委員】男の子がスカート履いて登校している姿を見たことがあり、今は、自由選択ができるようになってきており、また、周りもそれを特別視しなくなってきておりかなり良くなったと思う。

【委員】環境が大事であり、徐々にそのように浸透してきている環境になっている。

【委員】徐々に多くなってくると思う。そして、それに対する対応が必要。数年前に受講した講演会においてもトイレの問題は取り上げられていた。女性用男性用の2つが主流であるが、共用等のトイレもあるようにしていかなければならないと思う。

(2) パブリックコメントについて

【事務局】1月25日から2月8日にかけてパブリックコメントを実施させていただいた。

意見の1つ目として、パートナーシップ宣誓制度の導入について、大山崎町でも導入が必要であるという内容であった。

パートナーシップ宣誓制度については、京都市や長岡京市等の動きや状況等、これから調査をした上で検討させていただく。具体的には、京都市においては、市営住宅の入居や里親制度において、親族として申込みは可能である等。他分野にわたる調整が必要であるため、本町においては、時間をかけて検討をして参りたい。

意見の2つ目の男女共同参画の担当部署、男女共同参画センターの設置が必要ではないかというご意見について、大山崎町という小さな組織の中でなかなか専門センターを置くことが、予算や人の確保の点から難しいというところで、京都府と連携をとっていきながら本課として取組んでいく。また、長岡京市の男女共同参画センター等の近隣とも連携を図り、調査をし、可能であれば、紹介できるようにしていきたいと思っている。

意見の3つ目について、低すぎる数値目標の見直しということで、「社会通念や慣習、しきたり等における男女平等感」それから、「社会全体における男女平等感」、「役場の女性管理職率」これらの三つの目標数値がもう30%よりも低い数値になっているので、少なくとも30%以上の数値で設定すべきではないかという内容であった。

「社会通念や慣習、しきたり等における男女平等感」及び「社会全体における男女平等感」においては、20%を目標数値としていたが、30%に引き上げ、「役場の女性管理職率」については、25%に設定していたが、総務課とも協議を行い、35%を目標数値として掲げるということとなった。

【委員】「京都府との連携」は入れた方がよい。京都府とも連携しながら進める方がよいと思う。数値目標については、数字よりもそこでどうクリアしていくのかというところが一番大事なポイントである。

【委員】京都テルサに京都府の男女共同参画センターがあるが、各市町村に分所があれば良いと思う。やはり担当課に専門職が一人いるのといないのとでは随分ちがうと思う。

【事務局】様々な業務を兼務しないといけないので、なかなか専任というのは難しい現状である。

【委員】京都府との連携において、どういう連携の形をとるかということが大事だと思う。

府の男女共同参画センターは結構動いてくれると思う。ただ、個人の町民の方が何かをやっ
て欲しいというときに、なかなか京都テルサへ行って訴えるということができないので、専門
職の人が、各市町村にいて京都テルサと連絡取れるような形があれば、すごく相談もしやすい
し、解決も早いと思う。京都テルサから派遣されて週に1回対応できるように等。

【委員】女性議員が1人か0人である地方議会は約40%もあるという「女性ゼロワン議員」と
いう新聞記事を読み、驚いた。大山崎町は、現在、女性議員が2人でありこれに該当はしない
が他人事ではない。

【委員】女性が社会に出ていきやすい環境にしないといけない。

【委員】教育面では、女性の大学進学率において、ほとんど男女間の差がなくなってきてい
る。90年代の女性の進学率は20%台であったが、現在は約50%となっている。

【委員】本町の3つの小中学校の校長は、現在、3人とも女性。ただ、乙訓の小中学校の女性
管理職の割合が増えているわけではない。校長をイメージしたときに白髪の男性をイメージす
ることが多いかもしれないが、大山崎町の子どもたちにおいては、女性の校長をイメージする
子が増えると思う。その点は良いことかなと思う。

男性の育休について、ここ数年徐々に増加しており、これが広がっていけば良いと思う。

【委員】全体的に女性の校長の割合は、増えてきているのか。先日、長岡京市、大山崎町あわ
せて6校でお琴の体験授業のお手伝いに寄せてもらったが、皆さん女性の校長先生だった。

【委員】そんなに増えたという印象はない。小学校はもともと女性教員が多いので、以前から
管理職になる先生が多かった。自分の中学校において、女性教員は非常に少ない。

【委員】役場での若手職員の男女比は変わってきているのか。

【事務局】正職員は増えてきている。

30年以上前は、災害の時の出動は男性のみで、採用においても男性が多かった。その頃に比
べるとかなり女性が増えてきている。

災害時の動員体制において、現在では女性も当番に入っている。また、災害担当である危機
管理係に女性が配属されている。

【委員】体力を使うことばかりじゃなくて、やはり、メンタルの方のケアも大事で、（避難所
等において）女性に対しては女性に対応する必要がある。

【委員】目標値として、女性管理職35%としているが、職員の採用において、もっと女性が増
えたら、おのずと管理職になっていく女性職員が増えてくる。無理やり35%としても土台がな
いと無理である。採用の仕方そのものも考えていかないと、実現できる数字ではないのでは
ないかと感じた。

【委員】ジェンダーギャップ指数について、日本は、世界で116位。男女平等意識は持っている
が、行動が伴っていない高齢者が多いことが残念である。

閉会

【事務局】それでは、今後の予定について、今年度中に計画の策定を完了する。完了したら、
策定した旨、周知を図って参る。令和5年度からは、この第4次男女共同参画計画に基づき、
具体的な取組みを進めていくことになる。